

地域とともに －東北大学の発展における「宮城」－



TOHOKU
UNIVERSITY

2023年4月20日
総長特別補佐（広報・記念事業担当）
東北大学史料館准教授
加藤諭



1936年
25周年

1957年
50周年

2007年
100周年

1907 1911 1922 1936 1949 1958 1991 2004 2011 2022

指定国立大学法人

東日本大震災と復興

国立大学法人化

学風の形成（実学尊重）

大学設置基準の大綱化

大学改革の動き

川内・青葉山地区への移転

戦後復興と新制東北大学

研究所大学

法文学部の設置（名実ともに総合大学へ）

学風の形成（門戸開放）

学風の形成（研究第一主義）

理科大学からのスタート

東北帝国大学の誕生



(1) 東北帝国大学の誕生

- ▶ 東北大学は、東京・京都に続く国内3番目の大学「東北帝国大学」として、1907年6月に創設
- ▶ 仙台でも熱心な誘致運動⇔政府の財政難
- ▶ 古河家と宮城県の寄附金によって実現





(2) 東北帝国大学創設運動

- 第二次山縣有朋内閣日清戦争後の方針
 - ・・・軍備・殖産・教育の戦後三大方針
- 1899年、二帝大新設計画
 - 北海道、宮城、福岡、熊本、長崎が誘致運動
- 樺山資紀文部大臣の8年計画
 - 1900年～8年間に官立高等教育機関の新增設計画
 - ・・・東京帝国大学、京都帝国大学以外にも大学新設を
- 当時の地方官立学校の新設
 - 校地購入や校舎の建築等必要な費用は地元負担が原則
 - 1898年・・・宮城県会において東北帝大創設の寄附決議



山縣有朋

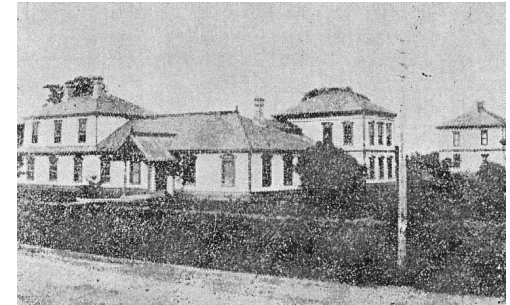


樺山資紀



(2) 東北帝国大学創設運動

- 当時札幌農学校
→文部省直轄の実業専門学校ではあったものの卒業生には例外的に「学士」称号付与が認可（帝国大学に比肩する水準）
→北海道でも帝国大学への昇格運動
- 結局8年計画は、大蔵省の強い反対で中止
- 1901年、前東京帝大総長の菊地大麓が文部大臣に就任
→帝国大学設置運動が再始動
→帝国大学の 신설ではなく、既存の帝国大学の拡充案
京都帝大福岡医科大学設置（1903年）

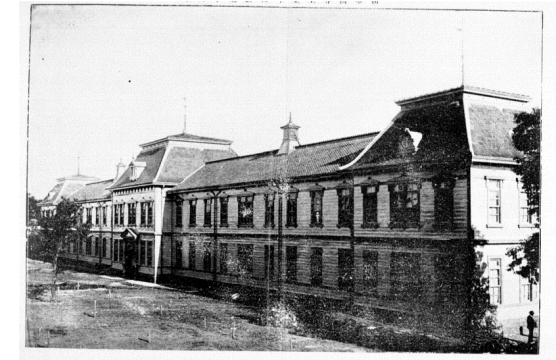


菊地大麓



(2) 東北帝国大学創設運動

- 東北地方選出の代議士たちの反発
→宮城県は寄附金内諾もしたのになぜに九州だけ
→仙台に高等工業学校設置を約束することで収拾
(菊地大麓)・・・仙台高等工業学校(1906年)
- 1904年の日露戦争を控えて、政府には教育関係の新事業推進の余力無く、
第3、第4の帝国大学新設計画は頓挫
- 日露戦争終結後再び地元代議士の帝国大学誘致運動再燃
→1906年、九州帝国大学工科大学案
東北帝国大学理科大学案
北海道帝国大学農科大学案





(2) 東北帝国大学創設運動

- 1906年時点でも当初、札幌の昇格運動が先行

⇔東北選出の代議士・宮城の地元県議・市議による東北帝国大学誘致運動の盛り返し

日付	内容
8月30日	政友会の元田肇・菅原伝ら3氏が牧野文相を訪れ、大学増設問題について意見を述べる。
9月7日	政友会宮城支部の有力者が同東北大会に対する提出議案等を協議。
9月8日	原敬内相が来仙。亀井英三郎宮城県知事、早川智寛仙台市長主催の招待会に出席。出席者200名。
9月15日	札幌にて政友会東北大会。
9月17日	澤来太郎（憲政本党）が牧野文相に東北帝大設立を陳情。
10月16日	東北帝大設立問題につき仙台市内有志が協議。田代進四郎・小野平一郎・福島与惣五郎（県）、前田藤吉郎・八木久兵衛（市）を上京委員に選定。
10月19日	東北帝大問題等につき宮城県選出の澤・首藤陸三（憲政本党）、遠藤良吉・菅原伝・遠藤庸治（政友会）と上京委員が東京にて会合。
11月12日	東北帝大問題につき澤が上京。
11月16日	東北帝大問題等に関し仙台市有力者が会合。大学設置の期成運動を起こす事とする。上京委員5名（田代・前田・八木・福島・小野）を選定。
11月18日	仙台市民大会の上京委員は政友会本部の菅原伝に面会、次に松田司法相、大蔵省の菅原参事官と面接。
11月19日	上京委員は原内相、澤柳文部次官に陳情。
11月20日	上京委員は牧野文相、若槻大蔵次官に陳情。その後分かれて政友会・憲政本党を訪問し賛同助力を求める。
11月21日	上京委員は斎藤実海軍相に助力を求める。



(2) 東北帝国大学創設運動

- ▶ 1906年10月中旬
- ▶ 宮城県は東北帝国大学創設に10万円の寄附を申請
⇒文部省としては、大蔵省説得の隠し玉の1つ
- ▶ 1906年11月17日
- ▶ 牧野伸顕文部大臣が原敬内務大臣に相談
⇒原敬が提案したのが、古河家からの寄付
- ▶ 原敬は1906年1月まで古河合名会社副社長
- ▶ 内務大臣になって以降も、古河家の相談役

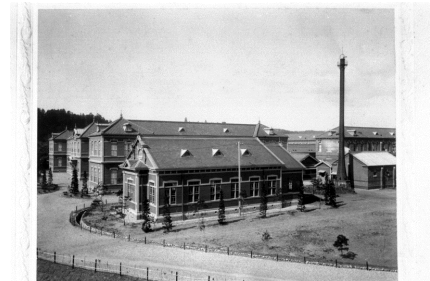


原敬



(2) 東北帝国大学創設運動

- ▶ 当時古河財閥・・・足尾銅山鉍毒事件で社会から厳しい批判
→原敬は世論を和らげる一策として「公共的献費」を求め、
古河家は、大学創設の寄附を受諾
→創設構想を救済し、実現させたのが古河家の寄附
- ▶ 内訳・・・東北帝国大学理科大学（約24万円）
東北帝国大学農科大学（約14万円）
その他事務経費（約7万）



1907年・・・東北帝国大学創設

⇒民間との密接な関係・・・社会とともに歩む東北大学





(3) 東北帝国大学医科大学の開設

- 1910年、宮城県参事会
宮城病院敷地に隣接する県有造林苗圃地を寄附
- 1913年、宮城県（直前に県立宮城病院の改築費50万円）
宮城病院の敷地建物および設備一切を東北帝国大学に寄附
※3万円の敷地代分については大学購入
- 1917年、篤志家による寄附（7000円の委託研究）
北條時敬総長→関口蕃樹（外科学）、小柳美三（眼科学）
戦時負傷者の外科的および眼科的治療状況調査囑託





- 東北帝国大学工学部
- 1918年から3か年、宮城県（75000円）、仙台市（同額）寄附
文部省としては「工科大学新設のため」

宮城県・市→工学専門部存続運動

(宮城県は仙台高等工業学校設置の際に、敷地・建物を提供)

1906年：仙台高等工業学校設置

1912年：東北帝国大学工学専門部

1921年：仙台高等工業学校





- ▶ 図書資料の充実と寄附
- ▶ 1911年、学内措置で東北帝国大学図書館設置
- ▶ 設置当初の所蔵数（12,938冊）

- ▶ 1912年、狩野文庫の購入
- ▶ 荒井泰治貴族院議員からの寄附（3万円、7万冊分）
- ▶ →澤柳政太郎総長が狩野亨吉、荒井泰治との仲立ち



国宝：
類聚国史卷第二十五





- ▶ 荒井泰治
- ▶ 仙台出身、日本銀行、鐘ヶ淵紡績会社、富士紡績株式会社を経て渡台。サミュエル商会（フランス系商社）台北支店長、塩水港精糖会社社長、台湾省工銀行頭取を歴任に帰国
- ▶ 1911年に東北実業銀行相談役、貴族院議員に
『宮城県百科事典』（河北新報社、1982）
- ▶ 台湾事業は、四代目藤崎三郎助と共同経営





大正末期から昭和初期に片平キャンパスの整備・拡充



戦前の東北帝大年間研究予算の1/3相当の助成規模

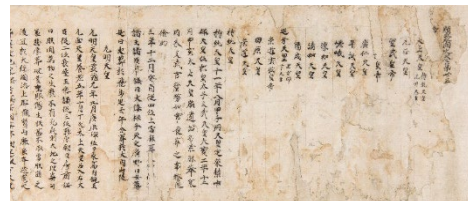


電気通信・低温・磁性などの基礎研究の進展

日本初の研究助成型財団
斎藤報恩会の研究助成

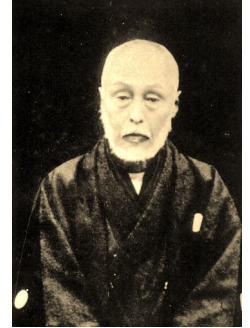


狩野文庫、ヴント文庫など東北大学の至宝集積





- ▶ 斎藤報恩会
- ▶ 1923年に、宮城県下の大地主斎藤家当主、九代目斎藤善右衛門有成が設立した財団法人
→日本初の本格的な学術助成型財団
- ▶ 報恩会事業
 - ▶ (1) 特定の学術研究所の設立及一般学術の研究に必要なる設備並に研究費の補助
 - ▶ (2) 産業発達に必要なる施設
 - ▶ (3) 国民思想の啓発善導及国家観念の涵養その他社会の幸福増進に必要なる施設
- ▶ 斎藤善右衛門の寄附にかかる300万円を基本資金。この300万円の利子のうち6割を「学術研究」、「社会施設」と「産業発達」に2割ずつを宛てる方針

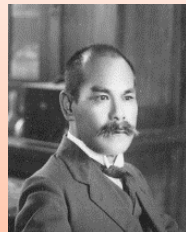




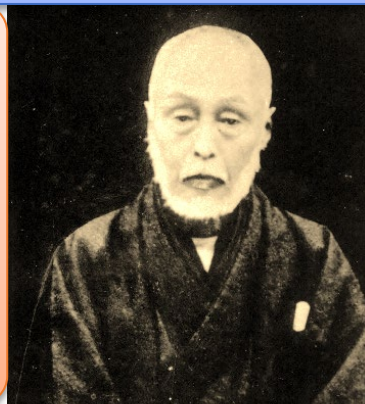
- 澤柳政太郎（元東北帝国大学総長）
斎藤善右衛門が財団法人設立に際し最初に相談した大学関係者



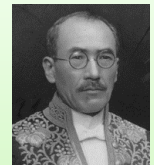
- 小川正孝
（東北帝国大学総長）



1921年頃に善右衛門の相談を受け、仙台に「学術研究所」を創ることを進言



- 井上仁吉
（工学部教授 のち総長）
実際の事業方針策定



→報恩会の事業に対する「意見書」
「大学その他適当の場所に各種の研究
室を分設して」、「学識有識者」
からなる評議員会の決定により研究
費を補給するプランをとりまとめ

- 熊谷岱蔵
（医学部・内科学教授 のち総長）
報恩会の発足にあたり理事会・評議員会が設置されたが、
評議員はその半数を東北帝国大学の教授が占めていた。





(6) 斎藤報恩会と東北帝国大学

1945年までの主な補助費

	研究題目	研究代表者	採用年	金額
1	電気を利用する通信法の研究	八木秀次 抜山平一 千葉茂太郎	1924～1929年	217000円
2	低温研究	本多光太郎 青山新一	1929～1931年	121900円
3	物質の磁性に関する研究	大久保準三 増本量	1932～1937年	81000円
4	本学に設置せらるべき農学研究所における冷害及雪害に関する研究	本多光太郎	1937～1939年	50000円
5	地形地物の地震動に及ぼす影響に関する研究	中村左衛門太郎	1924～1930年	46037円
6	西蔵仏典の研究	宇井伯寿 鈴木宗忠 金倉円照	1925～1928年 1930～1931年 1933～1934年 1938年	42947円
7	原子及分子の構造に関する研究	大久保準三 高橋胖	1925～1927年	29000円
8	ヴント文庫購入寄附	佐藤丑次郎	1923年	25000円
9	狩野文庫（洋書）購入寄附	林鶴一	1924年	20000円
10	海産哺乳動物の研究	井上嘉都治 岡崎克己他	1924～1927年	18422円
11	糖尿病の研究	熊谷岱蔵 佐武安次郎	1923～1927年	17660円
11	結核病の病原菌的分類に関する研究	熊谷岱蔵 佐武安次郎	1933～1937年	17660円



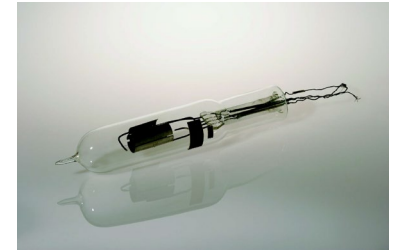
(7) 現在につながる研究の社会実装



磁性研究、鉄鋼研究、低温研究の系譜と成果は、現在の電動機や発電機、トランス、スピーカー、磁氣的記録装置に幅広く使われていくことに



マグネトロンの研究は電子レンジ、レーダー、人工衛星などに搭載される技術に



無線技術の研究はテレビ放送、レーダー、スマートフォン、wifiの技術へ



狩野文庫、グント文庫など東北大学の至宝が集積され、漱石文庫の寄贈へ



(8) 昭和戦前期の地元寄附

- 1920年、三瓶泰造（金山町長・現宮城県丸森町）
佐野理八（福島県二本松・金山で製糸工場経営）
→気象学研究用建物を寄附→2万8206円
- 1924年、青森県が八甲田山の植物実験研究所を寄附申請
※設置は1929年
- 1926年、宮城県が女川港に水産実験所設置のための寄附申請
※設置は1935年
- 1928年、青森県篤志家、野村市三郎・野村ブン・平田義造
理学部附属浅虫臨海実験施設敷地→3万9480円
- 1939年、農学研究所設置
宮城県より岩切村の原野、青森県より七戸町の原野などの土地提供

(9) 研究所への支援

- 金属材料研究所

1936年：本多光太郎教授在職25周年記念事業)

東北特殊鋼株式会社・東北金属工業株式会社等から寄附

・・・1941年本多記念館の竣工



- 選鉱製錬研究所（現・多元研の前身）

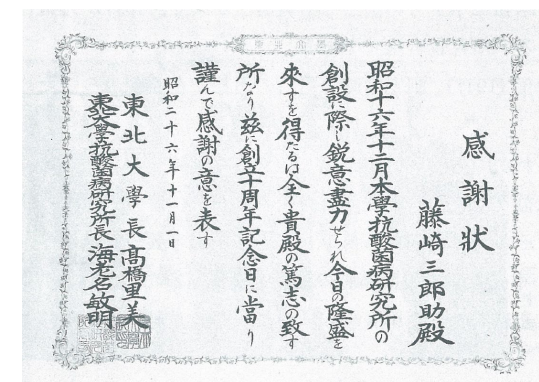
1941年に設置

→1943年まで民間から約60万の寄附金をもとに仙台市郊外長町に敷地確保

- 抗酸菌病研究所（現・加齢医学研究所の前身）

1941年に設置

藤崎三郎助（五代目当主・百貨店業）より敷地提供



- 非水溶液化学研究所（現・多元研の前身）

1944年設置

仙台の資産家伊澤平勝をはじめ財団法人三井報恩会などから、70万円の寄附



災害研究の系譜



本多光太郎
東北の冷害・雪害
対応のため農学研
究所を設置



中村左衛門太郎
地震学の泰斗とし
て百年前の関東大
震災、昭和三陸津
波の調査

感染症研究の伝統



熊谷岱蔵
結核研究のための抗酸
菌病研究所（現在の加
齢医学研究所）の設置



石田名香雄
iPS細胞への遺伝子導
入に用いられる「セン
ダイウイルス」の発見

世界的視点からの人文社会科学



阿部次郎
ベストセラー「三太郎
の日記」の作者であり、
日本と西欧の比較文化
研究のパイオニア

小田滋
「海洋法の小田」とし
て国際司法裁判所判事
記録最長27年在任

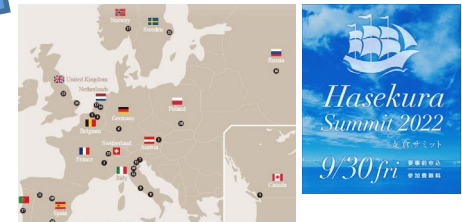


災害復興新生研究機構、復興アクション

グリーン未来創造機構



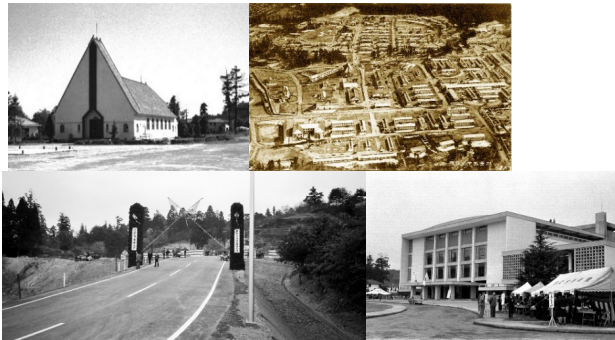
感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点



日本学国際共同大学院、支倉リーグ



- ▶ 東北大学川内キャンパス
- ▶ 仙台城→第二師団→米軍キャンプを経て1957年返還
- ▶ 敷地利用をめぐるっては各方面から様々な検討・協議
- ▶ 最終的に東北大学と宮城県・仙台市の三者でこの場所を仙台の新しい文教ゾーンとして整備していくことに・・・開かれたキャンパスがコンセプト





2011.3 震災発生

- ①東北大学自身の復旧
- ②多様な復興支援プロジェクト

2012年

災害科学国際研究所設置

メディカルメガバンク機構設置

→災害復興新生研究機構の発足へ



2014年

高度教養教育・学生支援機構設置

青葉山新キャンパス

- ▶ 2015年、地下鉄東西線
- ▶ 2016年、農学部移転
- ▶ 2018年、ユニバーシティ・ハウス完成
- ▶ 2020年、革新材料創成センター



次世代放射光施設（2024年運用開始予定）





片平キャンパスの登録有形文化財 →2021年には13件、国立大学最多に



旧 仙台医学専門学校
博物・理化学教室



旧 仙台医学専門学校
六号教室



旧 第二高等学校書庫



旧 東北帝国大学
附属図書館閲覧室



旧 東北帝国大学
理学部化学教室棟



旧東北帝国大学
理学部生物学教室



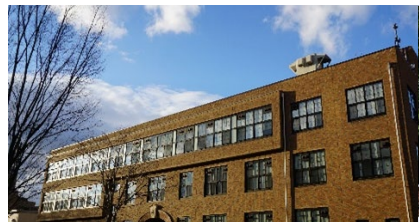
旧東北帝国大学
法文学部第二研究室



旧東北帝国大学工学部
機械学及び電気学教室



旧東北帝国大学工学部
機械学及び電気学実験室



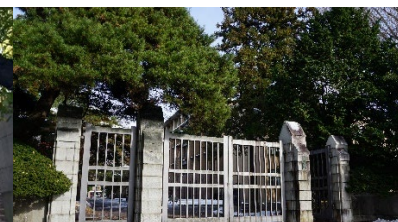
旧仙台高等工業学校
建築学科棟



本多記念館



旧制第二高等学校正門



旧東北帝国大学正門



1907 東北帝国大学創立

1911 理科大学 *開設 *数学科・物理学科・化学科を設置。のちに理学部へ

1915 医科大学 *開設 *のちに歯学部、薬学部が分立

1919 工学部設置

1922 法文学部 *の設置により、総合大学へ

*のちに文学部、法学部、経済学部の3学部へ分立

1947 農学部設置、10月東北大学に改称

1949 教育学部設置

2007 創立100周年

2013 女子学生入学100周年

2022



東北大学創立 115周年
総合大学 100周年